2024 ぎふ平和のつどい

ニュース　第1号　2024 年 6 月発行

「2024 ぎふ平和のつどい」
実行委員会　編集
（ 委員長：平方浩介　）
事務局：「岐阜・九条の会」
（岐阜県教育会館３F 304 号）
連絡：090-7917-9602（吉田）

今年の講演者はベトナム戦争を告発し続けてきた中村梧郎さん！

いま岸田政権は裏金問題・政治資金改革問題で窮地に立たされています。にもかかわらず、閣議決定した新安保３文書に基づき、大軍拡、武器輸出、改憲を進め、再び暗黒の戦前を蘇らそうとしています。

こういう方向を歩んでよいのでしょうか。今年は、記念講演者として、中村梧郎さんを招きます。

中村さんは、ベトナム戦争でアメリカが行った残虐な枯葉剤作戦を告発し続けられました。そして、今日のウクライナ戦争、ガザ虐殺も見据え、戦争は二度としてはならない、させてはならないという思いを抱いておられます。

私たちは今あらためて、日本と世界の平和への道を、中村さんとともに探りたいと思います。

会場フロアでは、中村さんの写真展も行います。ぜひ連れだって参加願います。

2024 ぎふ平和のつどい

2024 年 10 月６日（日）
13:30～16:00　受付：12:30
会場：岐阜市民会館大ホール
講演：中村梧郎さん（元岐阜大学教授、フォトジャーナリスト、）
「戦争はしないさせない～
私の戦場取材体験から」

★ 中村梧郎さん（なかむらごろう）さんプロフィール ★

フォトジャーナリスト。１９４０年生まれ。１９７０年以降ベトナム戦争を取材。戦後も引き続き枯葉剤問題を追及。１９９９～２００４年岐阜大学地域科学部教授（ジャーナリズム論、環境文化論）。１９８３年ニコン第８回伊奈信男賞。１９９５年日本ジャーナリスト会議（ＪＣＪ）特別賞、２００５年第１回日本科学ジャーナリスト賞。２００７年ニューヨークでマグナム創立６０周年記念招待作家として枯葉剤写真展、全米巡回。現在、ＪＣＪ代表委員、日本写真家協会会友。現代写真研究所副所長。　著書：『母は枯葉剤を浴びた』（岩波文庫・新刊・2005 年刊）、『記者狙撃～ベトナム戦争とウクライナ』（花伝社・2023 年刊）、他多数。

＜メッセージ＞　戦争をする日本であって良いのでしょうか“

日本は戦争する国に変貌しつつあります。安保３文書は全土を戦場にしかねません。自衛隊は米軍の命令の下、最前線に立たされます。「敵基地攻撃能力」でミサイル攻撃すれば、何倍も反撃されます。さらに兵器輸出解禁は世界の戦争に関わるのと同じことです。この誤った方向に行かぬようにしたいものです。

だが、若者だけでなく日本の多くの人たちは、戦場を知りません。戦争の実態は民衆の苦しみを現地で取材しなければ伝わりません。私はベトナム戦争におけるアメリカの枯葉剤散布など、戦争の残虐さ、残酷さを取材してきました。この取材で得た情報を皆さんに伝え、いまだに続けられているウクライナやガザでの残虐、悲惨な戦争を止めさせるようにいっしょに考えたいと思います。

「2024 ぎふ平和のつどい」開催にあたって　　実行委員長　平方浩介

さかのぼれば明治維新、近くは太平洋戦争敗戦以後からの因縁に従ってのアメリカとの付き合い以降、日本国社会はロクな目に会ってこなかった、というのが私のアメリカ観である。無批判無反省の中で、利己主義に満ちた競争主義社会を作り上げ、今また「戦争前夜」などと揶揄される世相に到った諸悪の根源には、相変わらぬ姿でかの国が座っている。

何とかならないものかと思案に暮れている時に、中村さんをお招きできたということは何より歓ばしい。これを機会に、他人の戦争で生まれてきたあのクニの正体が少しでも明かされ、それに盲従してきたこのクニの姿が見えてくるならこれに越したことはない。ぜひ多くの人に参加してもらいたい。

再びお話が聞けることを心待ちにしています

「国家公務員になってしまった。」１９９９年、岐阜大学地域科学部に赴任された中村梧朗先生が初講義の冒頭におっしゃった言葉です。私は思わず、くすっと笑いました。フリーで活躍されてきた中村先生が国立大学の教員となられた訳ですから、いちばん驚かれたのはご本人だったのかも。そのおかげで、当時４２歳で岐阜大学に３年次編入した私は、憧れの先生の講義を受けることができました。中村先生の講義は立ち見が出るほど、大人気でした。

『新版　母は枯葉剤を浴びた』のあとがきの結びの言葉をご紹介いたします。「ゴミ焼却路線をやめ、真の循環型社会を構築し、さらに化学兵器が使われることも決してなく、殺戮し合うこともない社会を速やかに作り上げる賢さこそが、今日私たちに求められているのでないだろうか。」

１０月に中村先生のお話をひさしぶりにお聞きできることを心待ちにしています。

浅井彰子（フリーアナウンサー・岐阜大学地域科学部同窓会「森の会」会長）

枯葉剤の恐ろしさ、高野記者狙撃の話など脳が騒いでいます

ベトナム戦争は私の青春時代と共にあった。それは私の政治や社会への目を大きく開かせた事件でもあった。ベトナム解放戦線のジャングルを盾にしたゲリラ戦に手を焼いた米軍が、ジャングルに枯葉剤を撒きに撒いたことは知っていた。だが、枯葉剤が猛毒ダイオキシンを含むことやその薬禍の恐ろしさを深く知ったのは「ベトちゃん・ドクちゃん」のことが報じられた頃からである。

この薬禍はベトナム人だけではなく米軍兵士にも及び、今も後遺症の苦しみを与え続けている。ベトナム戦争の悲惨を粘り強く取材し伝えてきた中村先生の姿勢に敬服するばかりである。そして戦争終了後の１９７９年の中越戦争で、赤旗記者高野さんが亡くなった事件の衝撃は鮮明に覚えている。中村先生がこの事件の目撃者と知り、私の脳が騒ぎだした。１０月６日が楽しみである。

三戸光則　（「九条の会・各務原」事務局長）

ベトちゃんドクちゃんたち、子どもたちの現況も聞ければ・・

新潮社から『母は枯葉剤を浴びた』の旧版が出版されたのが 1983 年。サイゴンが陥落し、ベトナム戦争が終わって 10 年近く経っていた。戦争時に米軍がゲリラ対策として、ジャングルを丸裸にするために散布したダイオキシン入りの枯葉剤。その被害を告発したのがこの書籍である。出版された直後、当時大学生だった私はむさぶるように読んだ。その後、分離手術をした双子のベトちゃんドクちゃんなど、枯葉剤による子どもたちへのむごたらしい被害がさかんに取り上げられた。戦争というと、原爆を頂点とする爆弾や地雷による被害に目を向けがちであるが、人々はこの書によって化学兵器のむごさを知ったのである。それから 20 年。かつての子どもたちも大人になった。その姿は、2005 年に出版された岩波文庫版（新版）が伝えている。そこではベトちゃんドクちゃんの分離手術の様子も描かれている。中村悟郎さんの講演がこの秋、岐阜市で聞ける。今の彼らの様子をじっくりと伺いたいと、今から期待をふくらませている。

足立哲男（岐阜哲学カフェ運営委員）

9999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999999

＜事務局から＞　「戦争やめて！」のポスター・シールを県内各地に！

＊著名な長谷川義文さんのイラストをもとに作成したポスターとマグネットシールができました。
どちらも１枚 100 円です。すでに多くが出回っています。注文は 090-3838-8181(井平)